

ギンボシヒョウモン

Speyeria aglaja

タテハチョウ科

魚類

底生動物

爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外來種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

ワシ・鳥原樹林



ギンボシヒョウモン（ウラ面）

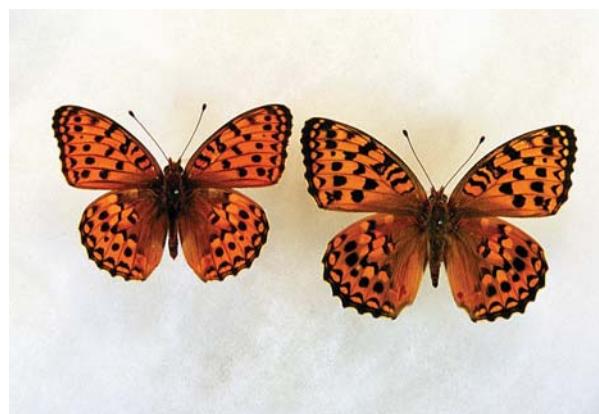
チョウ標本：吉原利之氏作成

特定種

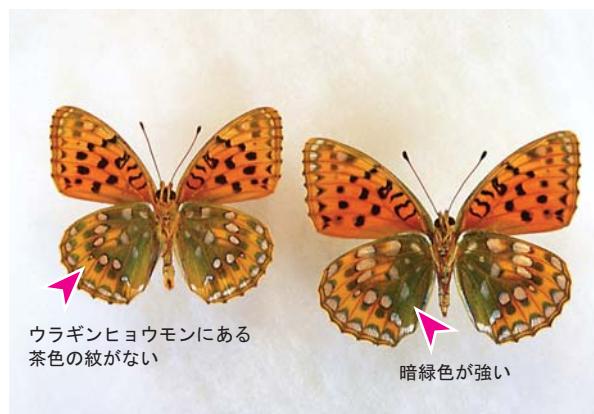
該当なし。

形態的特徴

後翅裏面が緑色がかかった地色で白い斑紋のある比較的大きなヒョウモンチョウ。表面はオレンジの地色に黒い紋が散りばめられた、ヒョウモンチョウ的な模様。



ギンボシヒョウモン。表（左がオス、右がメス）



ギンボシヒョウモン。ウラ（左がオス、右がメス）
暗緑色が強い

類似種と見分け方

ウラギンヒョウモン。

ギンボシヒョウモンの後翅裏面の地色の暗緑色は強く、ウラギンヒョウモンにある外縁の茶色の紋はない。



類似種、ウラギンヒョウモン。ウラ（左がオス、右がメス）
チョウ標本：吉原利之氏作成・所蔵

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
卵期	■											
幼虫期		■										
蛹期			■									
成虫期				■	■							

生育環境・分布

平地から山地の開けた草原、伐採後の林、成長していない植林地、林間の小草原、山道沿い。

分布：国外では、ユーラシア大陸などに広く分布。国内分布は、北海道、本州中部以北。北海道内分布は、全域。

繁殖生態・寿命

年1回発生。成虫は6月中旬～8月中旬に出現。越冬態は卵または1齢幼虫。

母蝶は産卵時には地表の植物の間をぬって飛び、スミレに止まった後、付近の枯れ枝などに産卵する。卵内で幼虫の体が完成し越冬する。

翌春孵化するが、その時期や孵化直後の幼虫の生態は不明。4月末ごろには、すでに2～3齢の幼虫が見られる。幼虫は3齢～終齢まで、ふだんは枯葉の下に潜っているが、日中散発的に食草上に出てきてすばやく摂食し、す

十勝地方では、平野部から山間部まで広く分布し、数も多い。

魚類

底生動物

爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(草花)

(外来種)

哺乳類

(鳥)

(ワシ・鳥・樹木)

他生物との関わり

- * 幼虫はタチツボスミレなどのスミレ類を食草とする。
- * 成虫の吸蜜植物としてエゾノキツネアザミなどのアザミ類をはじめ、多くの種が確認されている。
- * 卵、幼虫、蛹に寄生する蝶、蜂は確認されていない。

ぐに枯葉の下に潜る。株全体を食べ尽くすと、すばやく他の株に移り、3～5mぐらいは簡単に移動する。

幼虫は地表の大きめの枯葉の裏に糸を吐き、その下の地表を少し掘って指先の入るくらいのくぼみをつくり、その空間に枯葉にはりつくようにして蛹化し、ぶらりと下がる他の種と異なる。羽化した成虫は翅が伸びきらないうちに、隙間から抜け出す。寿命：不明。

幼虫の食性（食草）

タチツボスミレ、エゾノタチツボスミレ、スミレなどのスミレ類。

* 山地でときにバラバラになった翅を見かけることがあります、鳥についばまれたものと思われる。



エゾノタチツボスミレ。
ギンボシヒヨウモン幼虫の食草の一つ

興味深い話

■ ギンボシヒヨウモンをはじめ大型のヒヨウモンチョウ類の幼虫はスミレ類を食草することが知られているが、その選択性については詳しく調べられていない。スミレには有茎種と無茎種があり、これによっても食べたり、食べなかつたりすることがはっきりしているといわれる。

ギンボシヒヨウモンがどのスミレを好むのか調べて見るのも面白いかもしれない。

■ 十勝地方のアイヌ語では、チョウ類一般を「マレウレウ」という。

配慮事項

スミレ類の自生する林が必要。

参考文献

- 「原色蝶類検索図鑑」猪又敏男 北隆館 1990
- 「日本のチョウ」海野和男、青山潤三 小学館 1981
- 「原色昆虫大図鑑I（蝶蛾編）」北隆館 1978
- 「名前といわれ昆虫図鑑」栗林慧 大谷剛 偕成社 1987
- 「十勝の蝶」大和与三追悼集 十勝蝶の会 1993
- 「埼玉蝶の世界」埼玉昆虫談話会編 埼玉新聞社 1984

- 「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994
- 「知里真志保著作集 別巻I 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976